

令和元年度第 7 回審査会での質問と回答（(仮称) 大江川下流部公有水面埋立て）

	質問、意見の概要		審査会での事業者の回答	事業者の補足説明
1	水質・底質	重点的に監視する必要がある健康保護項目は、生活環境項目よりも調査回数を多くした方が良いと思います。	健康保護項目は、生活環境項目に比べ、季節的な変動が少ないと考え、夏季、冬季及び出水時の 3 回に設定しています。	—
2	水質・底質	出水時は、どの程度の出水を想定しているのですか。	調査可能な範囲で、多めに雨が降った時を考えています。 大雨時は、濁り等が平常時よりも大きく変動することが考えられるため、状況を把握するために調査を実施します。	—
3	水質・底質	出水時の降雨量や降雨強度がどの程度なのかを想定した調査計画を立てていただくよう意見を出すことはできますか。	具体的な調査方法のご意見をいただければ、対応について検討します。	—
4	土壌	土壌を環境影響評価の項目として抽出していませんが、埋立てに用いる土砂はどこかで評価対象になりますか。 また、どの段階で土砂の性状の確認をしますか。	埋立てに用いる土砂の安全性については、基準等を満足するものを用いる計画としていますが、こういった土を使用するかは現時点では未定です。 準備書では、評価に記載するのではなく、工事計画や予測の前提条件、環境保全措置等に記載します。なお、受け入れの際には、土砂の搬出元から性状のデータをいただくこと等により確認する予定です。	—

	質問、意見の概要	審査会での事業者の回答	事業者の補足説明
5	動物 動物の調査場所について、鳥類やスナメリ等の哺乳類についても確認できる範囲で海域まで調査をしていただきたい。 また、図でも示していただきたい。	確認できる範囲で海域を含めた全体的な状況を把握し、現地調査地点や確認種がいた場合の位置図を、準備書でお示しします。	—
6	ヒートアイランド現象 元々緑が少ない場所で水面が無くなると周りの熱環境に大きく影響すると思うので、野球場やテニスコートではなく、どの程度植物を植えないと周りが暑くなるか等のヒートアイランドの予測を実施すべきと思います。	基本的には開放されている場所であり、ヒートアイランド現象はよりマクロな視点で捉えていくものと思いますので、抽出していません。	土地利用計画は緑地を想定しており、計画の検討にあたっては、ヒートアイランド現象の影響の低減に配慮してまいります。